

不屈(福津)の精神を競え!

あんずの里でふくつチャレンジアスロン開催

3月11日、あんずの里運動公園で、第2回ふくつフェスティバルふくつチャレンジアスロンが開催されました。

強い風が吹く寒い日でしたが、230人あまりが、キックボウリングやフライキャッチなど12の競技を行いました。成績上位者には、ギフトカードやあんずの里市商品券などが贈られました。



▲強風の中でもナイスキャッチ

豊村酒造の景観が評価される

豊村酒造が優秀屋外広告景観賞を受賞

「第1回福岡県屋外広告景観賞」で、応募数111点の中から受賞作品6点が決定され、豊村酒造が優秀屋外広告景観賞を受賞しました。明治時代に施された看板は、建物のしっくいと一体となったきれいな仕上げであり、建物とともに地域の中でもまちなみの景観をリードしたものであると評価されました。豊村酒造の豊村理恵子さんは、「地域の皆さんのまちづくりの努力の成果を代表して受け取らせていただいたと思っています」と笑顔で受賞の喜びを語りました。



▲3月18日九州国立博物館での表彰式(右から4人目が豊村さん)



▲微妙なバランス調整の量りに見入っていました

昔の暮らしを体験

上西郷小学校の児童が畦町で社会科授業

3月7日、畦町で、上西郷小学校3年生の児童15人が、社会の授業の一つとして昔の暮らし体験を行いました。

畦町にある「ぎやらしい畦」の岩熊寛さんが案内役になり、洗濯板を使ったり、火鉢の火おこしをしたり、分銅を使った量りで体重測定をしたりして、児童たちは新鮮な体験の数々に興味津々でした。



▲アサリが増えることを願って放流

豊かな海づくりのために

水産高校の取り組み

3月8日、県立水産高校アクアライフ科の生徒たちが、干潟の深いところに向けてアサリを放流しました。また、水産高校生たちは、近海を豊かな漁場にするために山を整備し、竹林の拡大を防止する取り組みをしています。伐採した竹は、製塩の燃料に利用し、竹炭を作り干潟の水質・底質改善にも使っています。

指導する先生は、「乱獲などでアサリが激減している。アサリを増やすためにも3cm以下の稚貝は採らないでほしい」「私たちの取り組みは微力ですが、ここから波及し発展していくことを期待しています」と語っていました。



▲真剣に考え、話し合う様子

市民同士の草の根交流が評価

福津・慶州文化親善交流会がアジア貢献賞を受賞

3月9日、九州・沖縄・山口で、アジアの発展およびアジアとの国際交流に貢献している団体・個人を顕彰する「第13回西日本国際財団アジア貢献賞」の授賞式が福岡市内のホテルで行われ、福津・慶州文化親善交流会(金 光烈名誉会長)など2団体・1個人が受賞しました。

日韓の真の友好には互いの文化・歴史の理解と草の根交流が必要だとして、韓国慶州市との長年にわたる市民同士の交流が評価されました。



▲受賞した金名誉会長(左から3人目)と吉田会長(左から4人目)

まちのわだい

あなたの周りの身近な出来事や話題をお寄せください。

〒811-3293 (住所不要)
福津市役所広報秘書課 広報ふくつ行
☎43・8113

好きなことを生かして、起業するために

福津プチ起業塾を開催

2月2日・9日、3月8日の3日間、福津プチ起業塾を開催しました。講師は津屋崎ランチの山口寛さんとマーケティングプランナーの田坂逸朗さん。

「好きなことを生かして、起業するにはどうしたらいいのかわからない」ということを、参加者同士が時間を掛けて話し合いました。活発な意見が交わされますが、話が煮詰まることも…。そんな時、あっと驚く柔軟なアドバイスで起業の可能性を示してくれるのが、講師の田坂さんと山口さんです。

参加者は時が経つのを忘れて、話し合いに熱中していました。



▲左から毛利博紀さん、毛利弘美さん、清水智基さん、早川マイさん

弦楽四重奏の響きで聴衆を魅了

「藍の家弦楽四重奏団」の演奏会が開催されました

3月11日、津屋崎千軒民俗館「藍の家」で、クラシック音楽の演奏会が開かれました。演奏したのは「藍の家弦楽四重奏団」です。モーツァルトやボロディンの室内楽が演奏されました。2台のバイオリンとビオラ、チェロから紡ぎだされる音の駆け合いと美しい音楽の表現に、聴衆はうっとり。コンサート終了後も、拍手が鳴り止みませんでした。